

令和6年度
運営に関する計画

大阪市立淀中学校

令和6年4月

1 学校運営の中期目標（令和4年度から令和7年度）

現状と課題

- 令和4年度はじめての現状を示す数値として、令和3年度全国学力・学習状況調査における本校の平均正答率は、大阪市平均と比較して、国語が9ポイント・数学が12ポイント低く、令和3年度3年生チャレンジテストでは、本校の平均正答率は、大阪市平均と比較して、国語が6.7ポイント・数学が9.7ポイント・英語が6.9ポイント低かった。学力向上・特に下位層の状況改善に向けて、まず基礎・基本の定着から取組を継続して推進する必要がある。そのための方策の1つとして、校内授業研究の組織体制を整備し、ICTを活用した「わかりやすい授業づくり」の研究に取り組む。
- 本校の大きな特徴として、日本語指導を必要とする帰国・来日の生徒が多数在籍していることがある。平成31年度から日本語指導教員が配置され、グローバル教室やJSLの取組によって、増加傾向にある外国にルーツのある生徒への個別の学習支援に取り組んできたが、さらなるきめ細やかな対応の工夫を図る必要がある。
- 課題となっている生徒の家庭学習等の自主学習習慣の確立をめざして、グローバル教室・放課後学習会・土曜学習会に地域と連携して継続して取り組んできた。また、校区小学校と連携した淀中ブロックの取組として、英語検定・漢字検定を実施し、自主学習の機会を提供してきた。これらを継続しながら、より実態・ニーズに応じた効果的なかたちを模索する必要がある。
- 読解力の向上を目指した図書の活用が、国語のみならずさまざまな教科の学力向上に与える効果は大きいと考える。そのために毎日の放課後に学校図書館を開放して、生徒が読書に親しむ機会の確保に努めてきた。
- 体力・運動能力においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果として、男女ともおおむね大阪市の平均を上回っているが継続してさらなる向上をめざして取り組む。

中期目標 令和7年度末に令和4年度のスタート時点との対比で検証をおこなうために
年度目標は年度ごとに修正・追加を図るが、中期目標は令和4年度のままだ
している。

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、肯定的な回答を90%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当（英検3級）以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を40%以上にする。
- 生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」について最も肯定的な回答を33%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 1人1台端末の環境を生かし、デジタルドリルなどを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びの実現へ取組みを推進する。
- 生徒アンケートで「ICT 機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれていますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。
- 教員の1か月の超過勤務時間45時間以下を50%以上にする。
- ゆとりの日を週1回設定・実施する。（ゆとりの日についてはR6年度目標から削除）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標：R5の目標をR6も継続

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R5：83%)
- 年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。
(R5：10.2%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(R5：8.6%)

学校年度目標

- 生徒アンケート「学校生活は楽しい」について肯定的な回答を90%以上にする。
(R5：88%)
- 生徒アンケート「社会のルールや学校のきまりを守っていますか」について、肯定的な回答を95%以上で維持する。(R5：98%)
- 生徒アンケート「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらいいか理解していますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。(R5：94%)
- 生徒アンケート「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答を95%以上で維持する。(R5：96%)
- 生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答を80%以上にする。(R5：76%)
- 生徒アンケート「自分のよいところを伸ばし人の役に立つ人間になることにつながる自分自身の進路について、考える機会がありましたか」について、肯定的な回答を80%以上にする。(項目新設)
- 生徒アンケート「学校では、芸術鑑賞など教科の授業以外にさまざまな体験で学ぶ機会があり、考えが深まった」について、肯定的な回答を80%以上にする。
(項目新設)
- 生徒アンケート「個性や文化などのさまざまな違いを理解して認め、共に大切にすることは大切だと思う」について、肯定的な回答を80%以上にする。(項目新設)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標：R5の目標をR6も継続

- 生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する割合を35%以上にする。(参考 R5 全国学テ生徒質問紙調査：30%)
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。
(R5：国語 0.89 数学 0.78)
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当（英検3級）以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。(R5：44%)
- 生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」について最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上に保つ。(参考 R5：全国体力 50%)

学校年度目標

- 生徒アンケート「学校図書館は落ち着いて読書ができる魅力的な場所で、本を読んでもよいという気持ちが増した」について、肯定的な回答を80%以上にする。
(項目新設)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標：教育 DX については R6 新規

- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 10% 以上にする。(ただし大阪市教育委員会事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。)(R5 の数値なし)

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教員の割合を 60%以上にする。(R5 : 56%)

注：基準 1 = 1 か月時間外勤務 45 時間以内 かつ 1 年間時間外勤務 360 時間以内

基準 2 = 1 年間時間外勤務時間 720 時間以内 かつ 1 か月時間外勤務時間 45 時間を超える月が 1 年間 6 月以内 かつ 1 か月時間外勤務時間 100 時間以内 かつ

連続する 2 か月の平均時間外勤務時間が 80 時間以内

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標: R5の目標をR6も継続 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R5: 83%) ○年度末の校内調査において、不登校生の在籍比率を前年度より減少させる。(R5: 10.2%) ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R5: 8.6%) 学校年度目標 ○生徒アンケート「学校生活は楽しい」について肯定的な回答を90%以上にする。(R5: 88%) ○生徒アンケート「社会のルールや学校のきまりを守っていますか」について、肯定的な回答を95%以上で維持する。(R5: 98%) ○生徒アンケート「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらいいか理解していますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。(R5: 94%) ○生徒アンケート「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答を95%以上で維持する。(R5: 96%) ○生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答を80%以上にする。(R5: 76%) ○生徒アンケート「自分のよいところを伸ばし人の役に立つ人間になることにつながる自分自身の進路について、考える機会がありましたか」について、肯定的な回答を80%以上にする。(項目新設) ○生徒アンケート「学校では、芸術鑑賞など教科の授業以外にさまざまな体験で学ぶ機会があり、考えが深まった」について、肯定的な回答を80%以上にする。(項目新設) ○生徒アンケート「個性や文化などのさまざまな違いを理解して認め、共に大切にすることは大切だと思う」について、肯定的な回答を80%以上にする。(項目新設)	

年度目標の達成に向けた取組内容・指標【安全・安心な教育の推進】	達成 状況
取り組み内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめのない学校づくり（生活指導部） ●「いじめについて考える日」を設定し、「いじめを許さない学級・学校づくり」について子どもたちがお互いによく理解し考える機会を設ける。 ●いじめのアンケートを実施、認知したいじめについては、チームとしてその解消にあたる。 【指標】 ◆学期ごとに「いじめアンケート」を実施し、認知したいじめについて解消した割合を95%以上に保つ。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
取り組み内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 規律ある学校・暴力行為のない学校づくり（生活指導部） ●警察、子供相談センター、SSWやSCや関係諸機関と連携し、生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる仕組みづくりをする。 ●ケース会議等、組織的対応が100%できるようにする。 ●学期に一度程度、生活指導に関する講話(SNS 非行防止など)を行う。 【指標】 ◆校内における生徒アンケート「社会のルールや学校のきまりをまもっていますか」の項目について肯定的回答の割合を95%以上で維持する。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
取り組み内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒への支援体制（生活指導部） ●SSWやSCや関係諸機関等と連携して、不登校生徒の対応を行う。 ●不登校生徒の状況を鑑み、落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整備する。 【指標】 ◆年度末の校内調査において、不登校生の人数を前年度より減少させる。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	

取り組み内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 防災教育（健康教育部（防災担当）） ●緊急時に適切な判断ができる生徒を育成するため、「防災計画」を作成する。 ●災害等に備え、避難訓練・集団下校訓練を実施する。 【指標】 ◆ 生徒アンケートの「火災や地震、津波が起こったら、どう避難したらよいか理解していますか」の項目で、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 ◆ 避難訓練後の生徒アンケートで、「校内災害発生時の避難の方法がわかった」の回答の割合を90%以上にする。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
取り組み内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳心の育成（教務部（道徳教育推進担当）） ●「特別の教科 道徳」を推進するための研究（授業法・評価法）を進める。 ●道徳教育の取り組みについて道徳便りで情報発信する。 【指標】 ◆ 生徒アンケートの「自分を振り返り、自分のこととして考えることができましたか」「友達の意見を受け入れることができましたか」「積極的に参加し、考えることができましたか」の項目で肯定的回答の割合を80%以上にする。 ◆ 道徳だよりを学期に1回（年間3回）発行し、情報発信する。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	

取り組み内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 多様な体験活動の推進（教務部（学校行事担当）および管理職） ● 多様な芸術に触れ合わせる鑑賞機会を設定し、豊かな心を育む。 ● 西淀川区四中学校が連携した「に一よん模試」を土曜授業あつかいで実施し、自分自身の進路について考えるきっかけをつくる。 【指標】 ◆ 生徒アンケート「学校では、芸術鑑賞など教科の授業以外にさまざまな体験で学ぶ機会があり、考えが深まった」の項目の肯定的回答の割合を80%以上にする。（項目新設） ◆ 生徒アンケート「自分のよいところを伸ばし、人の役に立つ人間になることにつながる進路について、考える機会がありましたか」について、肯定的な回答を80%以上にする。（項目新設）	
【成果と課題】 （成果） （課題）	

取り組み内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】 外国にルーツのある子どもの支援・多文化理解（教務部（人権・外国人教育担当）） ●抽出による個別の日本語指導で、生活言語の定着を図る。 ●日本語指導者やJSL指導者による教科指導、グローバル教室において、日本語での学習についていけるだけの学習言語の定着を図る。 ●国際クラブ（ペルー教室・フィリピン教室・中国教室）において、母国についての知識を深め、母語の習得とアイデンティティーの確立を図る。 ●第1共生支援拠点「らんまん」と連携して講師を招聘し、「国際理解・多文化共生」学習の機会を設ける。 【指標】 ◆日本語教室に在籍する生徒に対して、年2回JLPTを行い（N5～N2）、個人の結果の平均を初回より平均5%上回るようにする。日本語教室に在籍する生徒へのアンケートの「日本語の学習は楽しいですか？」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ◆日本語指導者やJSL指導者による教科指導を受けている生徒、グローバル教室に参加している生徒にアンケートを行い、それぞれの満足度を65%以上にする。 ◆学期に1回、年3回国際クラブの活動を行い、参加生徒へのアンケートの「母国についての知識を高めることができましたか？」の項目で、肯定的な回答の割合を65%以上にする。 ◆生徒アンケート「個性や文化などのさまざまな違いを理解して認め、共に大切にすることは大切だと思う」について、肯定的な回答を80%以上にする。（項目新設）	
【成果と課題】 （成果） （課題）	

大阪市立淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標：R5の目標をR6も継続 ○生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する割合を35%以上にする。（参考R5全国学テ生徒質問紙調査：30%） ○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。（R5：国語0.89 数学0.78） ○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当（英検3級）以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。（R5：44%） ○生徒アンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」について最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上に保つ。（参考R5：全国体力50%） 学校年度目標 ○生徒アンケート「学校図書館は落ち着いて読書ができる魅力的な場所で、本を読んでもみようという気持ちが増した」について、肯定的な回答を80%以上にする。（項目新設）	

年度目標の達成に向けた取組内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】	達成状況
取り組み内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 指導力向上/研究授業（教務部（学力向上担当）） ● 学習のテーマを決めた研究授業、研究協議や、校内研修を実施し、授業の充実、新たな授業づくりにつなげる。 ● すべての授業者が、一人ひとりの子ども観、学級観、単元や授業のねらいを明確にし、主体的・対話的で深い学びの授業の創造に努める。 ● 学力向上について基本的な授業の改善（ねらい、めあてを示す、一方的に話さない、板書計画を立てる等）を確実に行う。 ● 放課後学習会を活用して、学力に課題のある生徒の学習の支援を行う。 【指標】 ◆ 生徒アンケートの「授業では自分の考えを発表していますか」の肯定的意見60%以上にする。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	

取り組み内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上（教務部（各教科主任））】

国語科	達成 状況
【取り組み内容】 ●ICT 教材または視聴覚教材を、全教員が単元に1回以上使用する。 ●国語科の授業や定期テストの中で、「書くこと」に関する指導をより深め、記述式問題等に対する意欲を高める。 ●記述式問題（20字程度）を毎回定期テストで出題する。	
【指標】 ◆生徒アンケートの「国語の学習はわかりますか」及び「国語の授業は楽しいですか」の肯定的意見を80%以上にする。 ◆定期テストで記述式問題の無回答率を20%以下にする。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
【次年度に向けた計画】	

社会科	達成 状況
【取り組み内容】 ・校内の研究授業だけでなく、校外における研修会に積極的に参加し、研修会で学んだことを教科担当教員間で共有することで指導力の向上を図る。 ・各学期に1回以上教員の相互授業参観を実施する。 ・班での協働的な学習やディベートなど生徒が自ら課題を発見し解決する機会をつくり、主体的な学びを授業で展開する	
【指標】 ◆テストでの記述問題の無回答率を25%以下にする。 ◆生徒アンケートの「社会の学習はわかりますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
【次年度に向けた計画】	

数学科	達成 状況
【取り組み内容】 ・自主学習プリントや生徒用デジタル教材を活用する。 ・教員間で教材を共有するなど、宿題や授業始めに復習プリントを活用し、反復学習を行う。 ・各学期にチームティーチング授業を行い、個に応じた学習指導の工夫に努める。	
【指標】 ◆ 生徒アンケートで、「数学の授業が楽しいと思う」と肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。 ◆ 夏休みや冬休みの課題の提出率を90%にする。 ◆ チャレンジテストの無回答率を20%以下にする。 ◆ 学校評価アンケートで「授業がわかる」という肯定的回答の割合70%以上にする。	
【成果と課題】 (成果) (課題)	
【次年度に向けた計画】	

理科	達成 状況
【取り組み内容】 ● 自主学習プリントや入試問題を活用し、小テストを実施する。 ● ICT教材を活用し、生徒の興味・関心を引き出す。 ● 積極的に観察や実験を行い、目的・結果・考察を意識させた授業を行う。	
【指標】 ◆ 生徒アンケートで、「理科の授業が楽しいと思う」と肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。 ◆ 実験レポートの提出率を90%以上にする。	
【成果と課題】 (成果) (課題)	
【次年度に向けた計画】	

音楽科	達成 状況
【取り組み内容】 ● ICT の活用を通じて、「わかる」「楽しい」授業を行う。 ● 授業規律を徹底する。	
【指標】 ◆ 生徒アンケートで「音楽の授業が楽しいと思う」と肯定的な割合を75%以上にする。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
【次年度に向けた計画】	

美術科	達成 状況
【取り組み内容】 ● 毎回の授業で ICT を活用し、分かりやすい授業を徹底する。 ● 学習用端末を活用し、生徒の発想のつまづきを軽減する。	
【指標】 ◆ 生徒アンケートの「美術の学習はわかりますか」及び「美術の授業は楽しいですか」の肯定的意見を80%以上にする。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
【次年度に向けた計画】	

保健体育科	達成 状況
【取り組み内容】 ● 研究授業を年間1回以上実施する。 ● 教科で教材を共有する。 ● 月一回以上、教科会を持ち情報共有を行う。 ● ICT教材を使用し、生徒が主体的に学ぶ授業実践を行う。 ● 毎時間ペア活動、グループ活動を取り入れ、協働的な学習の機会を設ける。 ● 体育行事の活動を充実させる。 【指標】 ◆ 生徒アンケートで「体育の授業が楽しい」「体育の授業がわかる」と肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 ◆ 保健分野のICT教材使用割合を80%以上にする。 ◆ 体育関連行事の校内アンケートで肯定的な回答を85%以上にする。	
【成果と課題】 (成果) (課題)	
【次年度に向けた計画】 .	

技術家庭科	達成 状況
【取り組み内容】 ● 技術科と家庭科の相互授業参観を行い、授業力向上を図る。 ● 提出物の提出状況を生徒に示すようにする。 ● 欠席等で作品の完成が遅れている生徒へ個別に相談し、完成させるようにする。 【指標】 ◆ 提出物を提出した生徒の割合を80%以上にする。 ◆ 製作物が完成した生徒の割合を80%以上にする。 ◆ 技術科と家庭科の連携した授業を1回行う。	
【成果と課題】 (成果) (課題)	
【次年度に向けた計画】	

英語科	達成 状況
【取り組み内容】 ●研究授業を計画的に実施し、研究協議を持ち、指導力の向上に努める。 ●デジタル教科書や ICT 教材を使用し、生徒が主体的に学ぶ授業実践を行い、言語活動の充実に努める。 ●習熟度別授業を実施し、個に応じた授業実践を行う。 ●単語テスト・小テストを適宜実施する。 ●英検二次試験対策の補習を行う。	
【指標】 ◆毎時間 ICT 教材を使用する。 ◆生徒アンケートの「英語はわかりますか」の項目で、肯定的な回答の割合を 70%以上にする。 ◆習熟度別少人数授業に関する生徒アンケートで「授業がわかる」という肯定的な回答の割合を 70%以上にする。	
【成果と課題】 (成果) (課題)	
【次年度に向けた計画】	

取り組み内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 読書活動の推進（各学年・読書担当） ● 公共図書館による学校支援サービスを利用する。 ● 各クラスに学級文庫を設置し、朝読書を推進する。 ● 生徒委員会を中心に読書推進のための活動を計画し、実施する。 指標 ◆ 年間1回以上、公共図書館の「団体貸し出し」や「読み聞かせ」を活用する取り組みを行う。 ◆ 図書館補助員と連携し、学級文庫の図書の入替えを年間2回以上実施する。 ◆ 生徒アンケートにおける「読書は好きですか」（前年 62.8%）「読書の時間は集中して本を読んでいますか」（前年 69.8%）の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。 ◆ 生徒一人当たりの年間貸し出し冊数を2冊以上にする（前年度 1.9 冊）。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
取り組み内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体力・運動能力の向上（マラソン委員会 委員長） ● 体育科授業、体育的行事、部活動（運動部）などの学習や活動を通して、子どもの体力・運動能力向上のための取組を充実させる。 ● 体育の授業、体育的行事、部活動（運動部）のほかに、昼休みなどで、日々、体を動かすことができる環境を整える。 指標 ◆ 運動部所属生徒へのアンケートで「充実している」と肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ◆ 体育大会・マラソン大会における生徒アンケートで肯定的に回答する生徒の割合を80%以上に維持する。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
取り組み内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 食育指導（健康教育部（給食・食育担当） ● 給食指導や家庭科授業など様々な機会をとらえて、食育を推進する。 【指標】 生徒に給食アンケートを実施し、「全部食べた」「ほとんど食べた」と回答する割合を80%以上にする。 ◆ 生徒アンケートにおいて「毎日朝食を食べる」の割合を85%以上にする。 ◆ 食への興味関心を持たせるため、食育通信の配布や講話の計画、給食の時間を有効活用する。（保健委員の活用）	

【成果と課題】 (成果) (課題)	
取り組み内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健指導（健康教育部（学校保健担当）） ●本校の健康課題の改善に向け、保健だより等で情報発信を行い、保健員会などを活用し、啓発活動を進めていく。 ●保健指導を活用し、より健康への意識を高める。 学校保健委員会を開催し、保健委員会の取り組みや健康課題について、校医・保護者と連携しながら、課題解決について話し合う。	
【指標】 ◆保健指導を年2回以上行う。	
【成果と課題】 (成果) (課題)	
次年度に向けた計画	

大阪市立淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標：教育DXについてはR6新規 ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の10%以上にする。（ただし大阪市教育委員会事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）（R5の数値なし） ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。（R5：56%） 注：基準1＝1か月時間外勤務45時間以内 かつ 1年間時間外勤務360時間以内 基準2＝1年間時間外勤務時間720時間以内 かつ 1か月時間外勤務時間45時間を超える月が1年間6月以内 かつ 1か月時間外勤務時間100時間以内 かつ 連続する2か月の平均時間外勤務時間が80時間以内 学校年度目標：R5の全市共通目標をR6学校年度目標に変更 ○1人1台端末の環境を生かし、デジタルドリルなどを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びの実現へ取り組みを推進し、生徒アンケートで「ICT機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれていますか」について、肯定的な回答を95%以上にする。（R5：93%）	

年度目標の達成に向けた取組内容・指標 【学びを支える教育環境の充実】	達成状況
取り組み内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルフォーメーション）の推進】 ICT教育の推進（教務部（ICT担当・CIO）） ● わかりやすい授業を推進するために、一人一台のクロームブックなどのICTを用いた視聴覚教材の使用を進める。 指標 ◆ 生徒アンケートで「先生はICT機器や資料などを示し、教え方を工夫してくれている」の項目において肯定的な意見を94%以上にする。 ◆ 年1回オンラインで授業する取り組みを行う。 【成果と課題】 （成果） （課題）	

取り組み内容②【基本的な方向9 家庭・地域等との連携協働した教育の推進】	
地域・家庭と連携協働した開かれた学校づくり（教務部（地域連携担当）および管理職）	
● 学校元気アップ支援事業による「土曜学習会」の参加率を向上させる。 ● 校区小学校と連携して、英語検定、漢字検定を実施するなど、自主学習のための機会を提供する。 ● たぶんか進路説明会や、土曜学習会・図書開放・小中図書交流を実施し、読書活動の推進、学力向上、多文化共生教育を推進する。 ⇒それぞれの取組において、これまで受け継がれてきた実践への尊重をベースに、より実態とニーズに応じたかたちを模索していく。	
【指標】 ◆ 土曜学習会への参加生徒の人数を昨年度より増加させる。 ◆ 進路説明会や図書交流の参加人数を昨年度より増加させる。 ◆ 英検・漢検の取得者数を前年度より増加させる。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
取り組み内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	
働き方改革（管理職）	
● ICTの活用を活発にすることで、情報共有や教員間連携を円滑に行うよう努める。 ● 地域人材や部活動指導員の活用を推進し、教員の業務負担の軽減を図る。 ● 校内の若手育成研修を充実させ、若手教員の不安感を軽減する。 ● 教職員のワークライフバランスの推進に努める。	
指標 ◆ アンケートは集計の手間を無くすため、Forms等を活用する。 ◆ 部活動指導員や学びサポーターの配置を昨年度（14名）より増やす。 ◆ 若手育成研修を年間2回開催する。 ◆ 全ての教職員が5日以上有給休暇を取得する。	
【成果と課題】 （成果） （課題）	
次年度に向けた計画	